

第六十三回フォト句優秀作品（28年6月6日）



大輪の花咲かせじと

江戸の華 池田 隆

寸評：ドローンでも使ったような  
アングル。得がたい画像だ。こんな  
華が大輪になったら困ります。



くすくつたい！縄文人は

多産系 中村 晃也

寸評：微妙な箇所に雑草が  
触れただけでも、子供ができた  
と古事記に記載があるとか。



耕さぬ棚田見守る

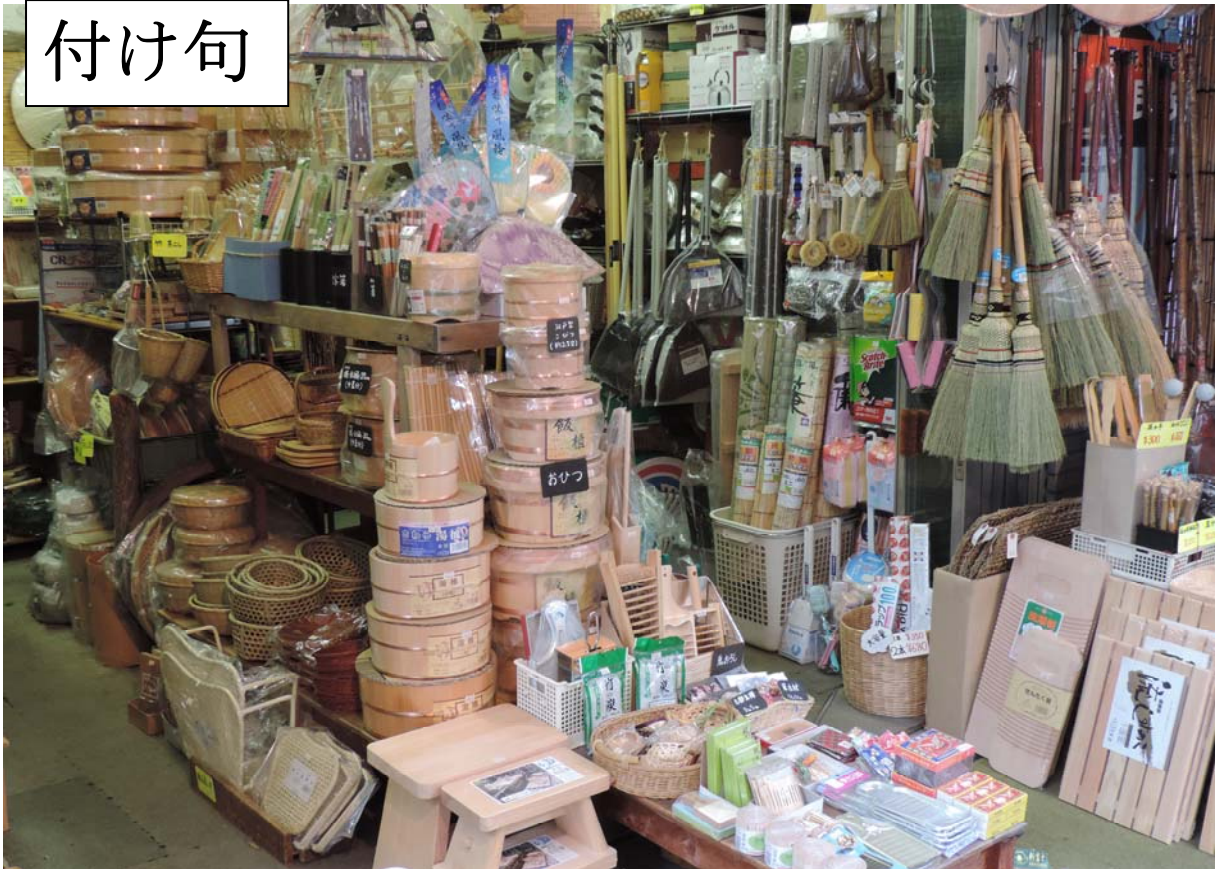
目になみだ 大月 和彦  
寸 評：耕作放棄された棚田を  
お地蔵様が悲しげに見守って  
いる。耕作してくれるボランテ  
イアはいないものか？



若葉打つ雨音ばかり

山煙る 松田 昌康  
寸 評：色調を抑えた画像  
にしっとりとした佳句が付  
いた。この調子！

## 付け句



今月は矢澤さんの出題で、良く整理された人形町の荒物屋の店頭の写真です。

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1) 売れないねえ商品同士の話し合い | 中村 晃也 |
| 2) 木の香り心を癒す和の暮らし   | 下山 健夫 |
| 3) 風よ吹け伝統守る人のため    | 下山 健夫 |
| 4) お得意は昔女房今は俺      | 松田 昌康 |

寸評：

- 1) 小こぎれいな店、整理された品物。近年電化製品が多く、この種の商品は売れ行きが悪い。いまや外人の購買力に頼るとか。
- 2) 桶でも箒でも確かに原料の植物の香りがする。心を癒す和の香りだ。  
ノスタルジーを感じるのは年齢のせいかな？
- 3) 復古調とはいかなくても伝統を守る人たちに暖かい風が吹いて欲しい。
- 4) 荒物屋で買い物をするのは、女房族ではなく年齢を召した亭主族にかわった。  
家庭内の権力の移動が如実に現れた格好だ。

今月の付け句では、フォト句会では新人に近い下山、松田両氏が入選した。  
誠に喜ばしいことで、今後のご活躍を期待したい。